

# 令和2年度「生涯スポーツ振興のための調査」について

鹿児島県総合体育センター

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

ア 県民のスポーツ活動等に関する実態調査を行い、今後の生涯スポーツの振興施策の基礎資料とする。

イ 県民に調査結果を公表し、「スポーツを通して、支え合うことのできる活力ある社会づくり」の気運を高めるとともに、生涯スポーツ振興上の課題解決に生かす。

### (2) 調査項目

ア 運動・スポーツへの関心について

「する」「みる」「ささえる」の3つの観点から

イ 地域とのつながりについて

ウ 総合型地域スポーツクラブ（コミュニティスポーツクラブ）の認知度及び加入に対する意向について

エ 国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」、全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」への関心について

### (3) 調査期間

令和2年5月から7月

### (4) 調査対象

ア 県内18歳以上の2,724人（※1）

イ 調査対象の世代区分及び年齢区分（※2）

（人）

区分	青年期	壮年期			高齢者
		18歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	
年齢	18歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳以上
男性	454	152	151	151	454
女性	454	152	151	151	454
小計	908	304	302	302	908
合計	2,724				

※1 平成30年度「市町村別、男女別人口及び世帯数、人口動態（県企画部統計課）」に基づき、各市町村のサンプル数を算出した上で、18歳以上の2,724人を対象に実施

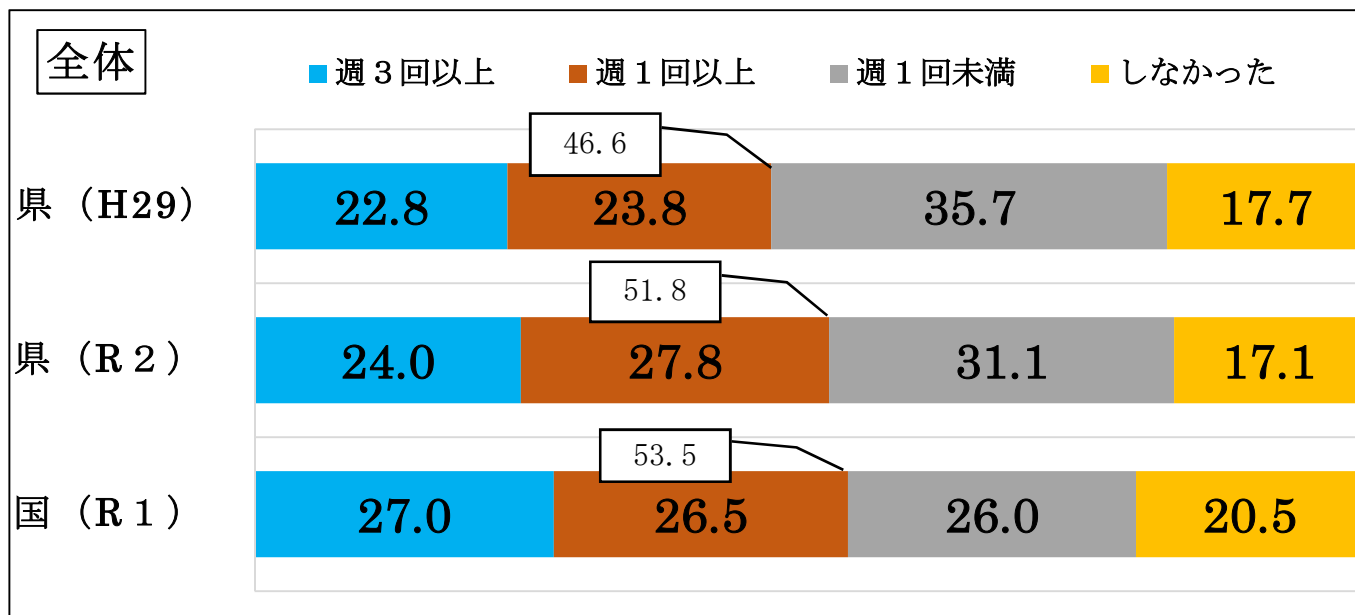
※2 「スポーツ振興かごしま基本方針（平成23年7月策定）並びに過去の基本調査の区分に準じて設定

## 2 調査結果及び考察

### するスポーツ

問1 この1年間にどのくらいの頻度で運動やスポーツを行いましたか。

(1) 本県前回調査及び全国調査(※3)との比較(全体) (%)



#### 【比較結果】

##### 〔本県前回調査(H29)との比較〕

- ・ 「週1回以上」のスポーツ実施率は、5.2ポイント上昇した。
- ・ 「週3回以上」のスポーツ実施率は、1.2ポイント上昇した。
- ・ スポーツを「しなかった人」の割合は、0.6ポイント減少した。

##### 〔全国調査(R1)との比較〕

- ・ 「週1回以上」のスポーツ実施率は、1.7ポイント下回っている。
- ・ 「週3回以上」のスポーツ実施率は、3.0ポイント下回っている。
- ・ スポーツを「しなかった人」の割合は、3.4ポイント少ない。

#### 【考察】

新型コロナウイルス感染症の影響で県民のスポーツ実施率の減少が懸念されたが、前回調査より上昇しており、県民の健康志向の高まりや余暇の有効活用への意識が高まってきたことがうかがえる。また、本県の生涯スポーツ振興施策である「マイライフ・マイスポーツ運動」や本センター及び各市町村が主催するスポーツイベント等の実施の成果が現れてきているのではないかと考える。

一方で、本県の目標値及び全国の実施率と比較するといずれも下回っており、今後さらに各市町村行政や総合型地域スポーツクラブ(コミュニティスポーツクラブ)(※4)と連携した施策の工夫・充実や、県民が身近に手軽にスポーツに親しむことのできる環境づくりを推進する必要がある。

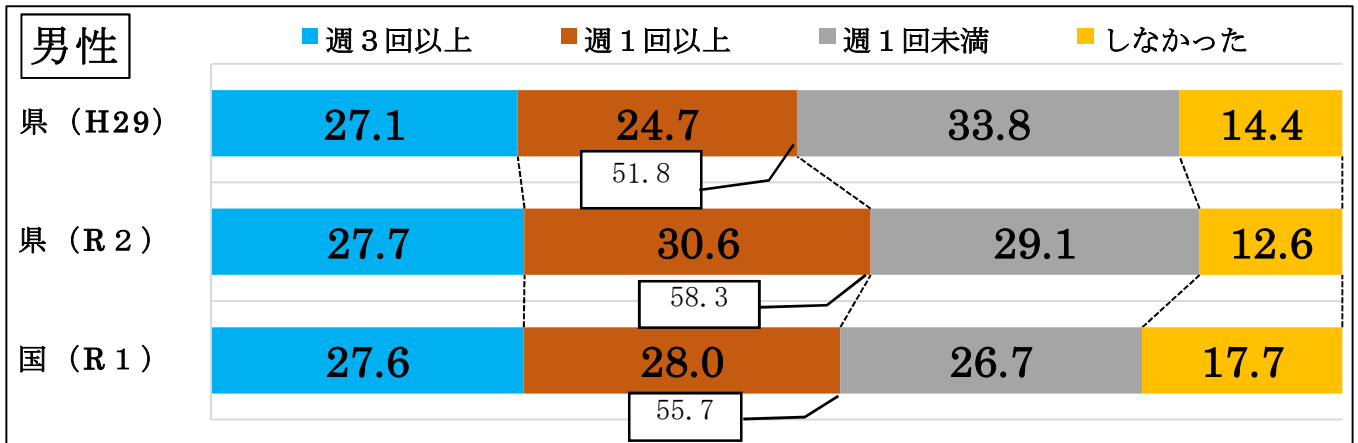
※3 全国調査・・・スポーツ庁が令和元年11月22日～12月13日に、18歳～79歳の男女(標本数20,000件)にWebアンケート方式で実施した「令和元年度『スポーツ実施状況等に関する世論調査』」

※4 総合型地域スポーツクラブ(コミュニティスポーツクラブ)

・・・地域の日常的なスポーツ活動の場として、地域の住民自らが主体となって運営するスポーツクラブ

(2) 本県前回調査及び全国調査との比較（男女別）

(%)



【比較結果】

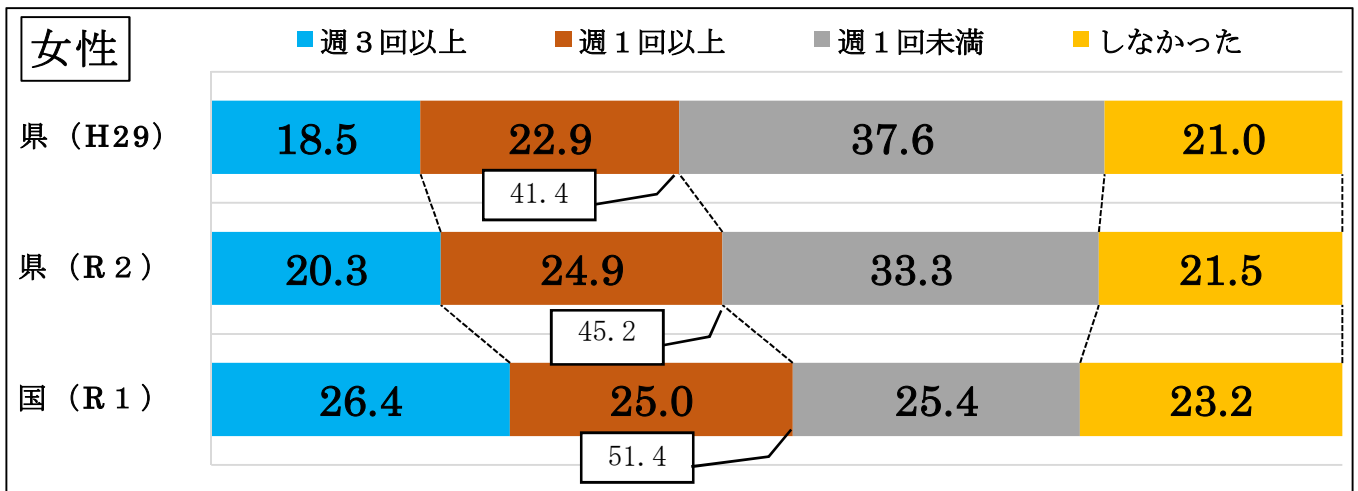
〔本県前回調査（H29）との比較〕

- ・ 「週1回以上」のスポーツ実施率は、6.5ポイント上昇した。
- ・ 「週3回以上」のスポーツ実施率は、0.6ポイント上昇した。
- ・ スポーツを「しなかった人」の割合は、1.8ポイント減少した。

〔全国調査（R1）との比較〕

- ・ 「週1回以上」のスポーツ実施率は、2.6ポイント上回っている。
- ・ 「週3回以上」のスポーツ実施率は、0.1ポイント上回っている。
- ・ スポーツを「しなかった人」の割合は、5.1ポイント少ない。

(%)



【比較結果】

〔本県前回調査（H29）との比較〕

- ・ 「週1回以上」のスポーツ実施率は、3.8ポイント上昇した。
- ・ 「週3回以上」のスポーツ実施率は、1.8ポイント上昇した。
- ・ スポーツを「しなかった人」の割合は、0.5ポイント上昇した。

〔全国調査（R1）との比較〕

- ・ 「週1回以上」のスポーツ実施率は、6.2ポイント下回っている。
- ・ 「週3回以上」のスポーツ実施率は、6.1ポイント下回っている。
- ・ スポーツを「しなかった人」の割合は、1.7ポイント少ない。

【考察】

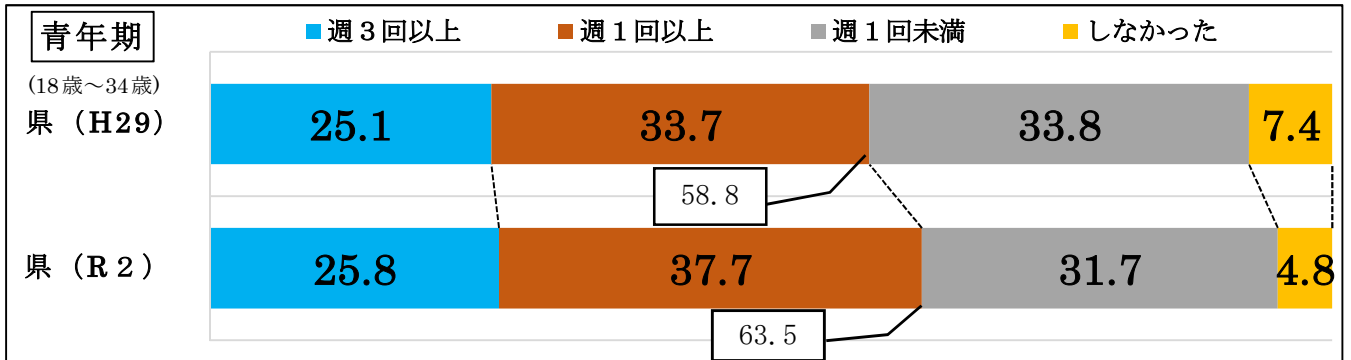
男女ともにスポーツ実施率は前回調査より上昇した。特に男性については、全国と比較しても高い数値を示しており、スポーツの実施に対する意識は高まってきていると考えられる。

一方で、女性のスポーツ実施率は全国と比較すると低いことから、女性が気軽に参加でき、スポーツに親しむことのできる機会を各市町村行政や総合型地域スポーツクラブ（コミュニティスポーツクラブ）と連携して今後さらに確保していく必要がある。

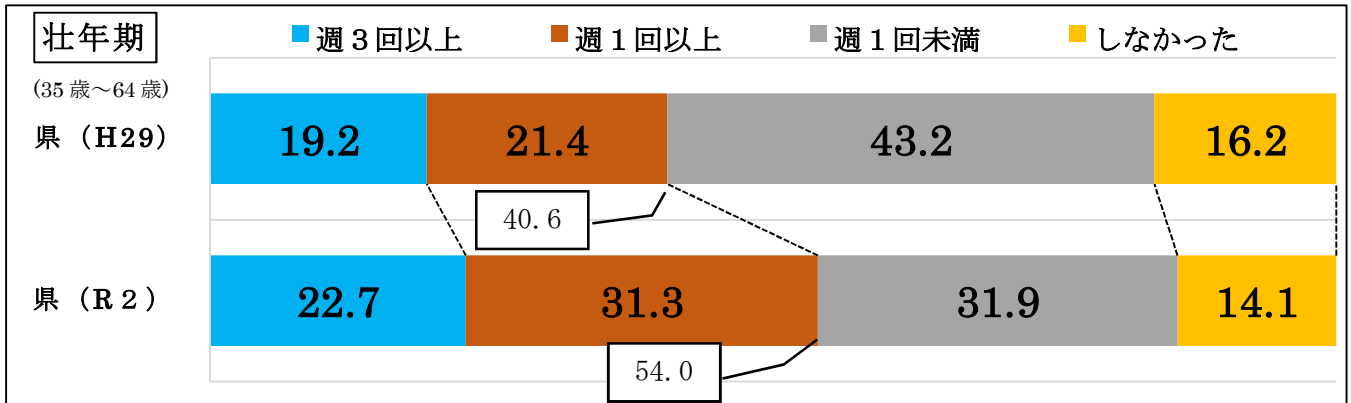
(3) 本県前回調査との比較（世代別）  
 （全国調査とは世代区分が異なるため、比較はしない。）

ア 男性

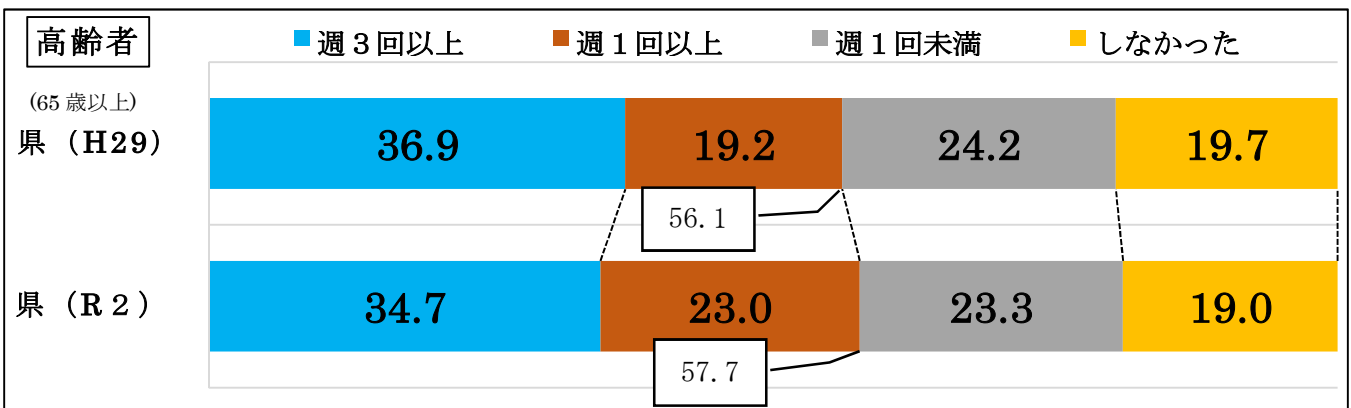
(%)



(%)



(%)

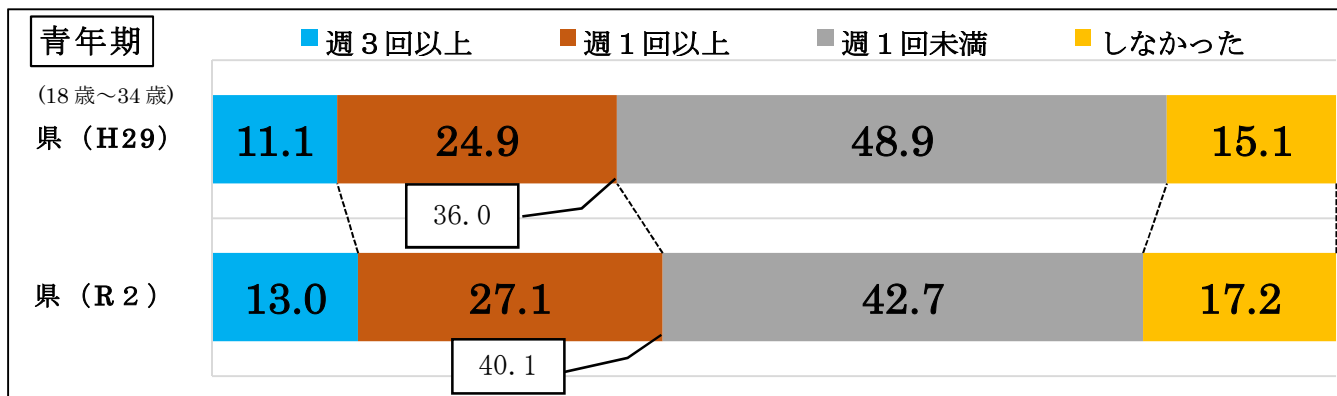


【比較結果】

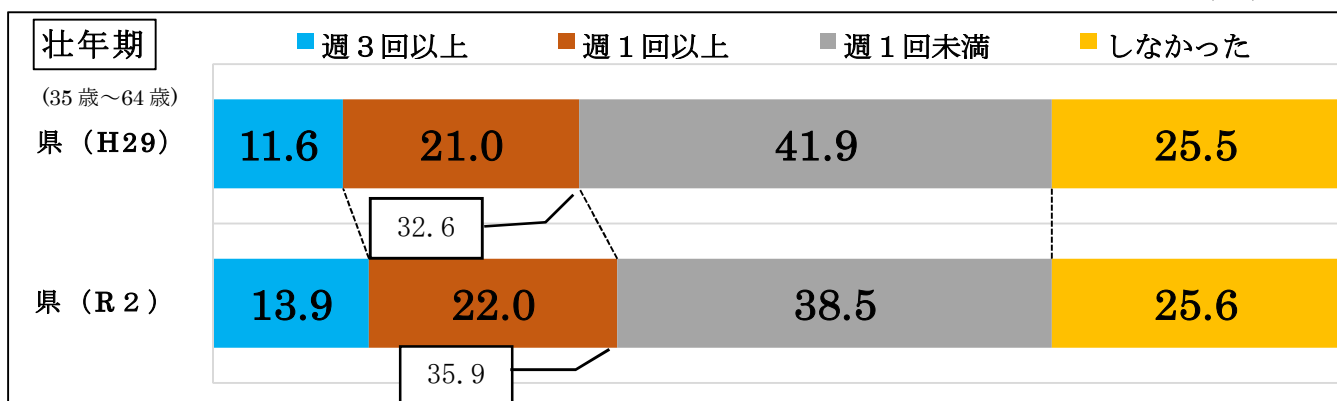
- ・ すべての世代において、「週1回以上」のスポーツ実施率は上昇した。
- ・ 青年期及び壮年期において、「週3回以上」のスポーツ実施率は上昇した。
- ・ すべての世代において、スポーツを「しなかった人」の割合は減少した。

イ 女性

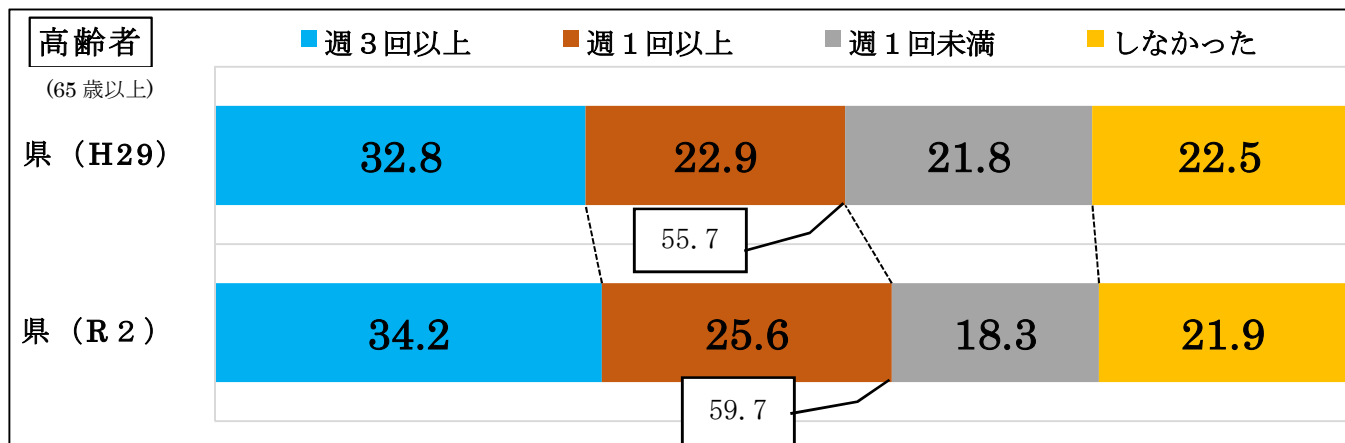
(%)



(%)



(%)



**【比較結果】**

- すべての世代において、「週1回以上」のスポーツ実施率は上昇した。
- すべての世代において、「週3回以上」のスポーツ実施率も上昇した。
- 高齢者の世代において、スポーツを「しなかった人」の割合は減少した。

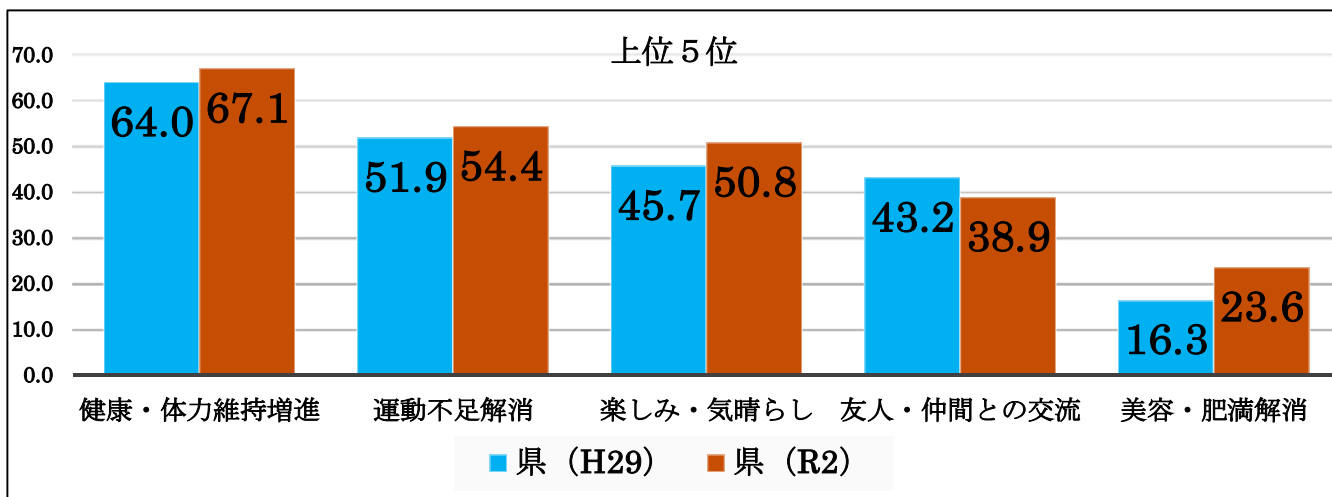
**【考察】**

男女ともに、どの世代においても「週1回以上」のスポーツ実施率は上昇してきており、豊かなスポーツライフを過ごせている人が増えてきている。

なお、他の世代と比べ、女性の青年期及び壮年期の実施率が低いことから、この世代の人々がスポーツに親しむことができるような施策の工夫・充実が必要であると考えられる。

問2 あなたが運動やスポーツを行う理由を教えてください。  
(問1で「しなかった」以外を回答した者：複数回答可)

(%)



【比較結果】

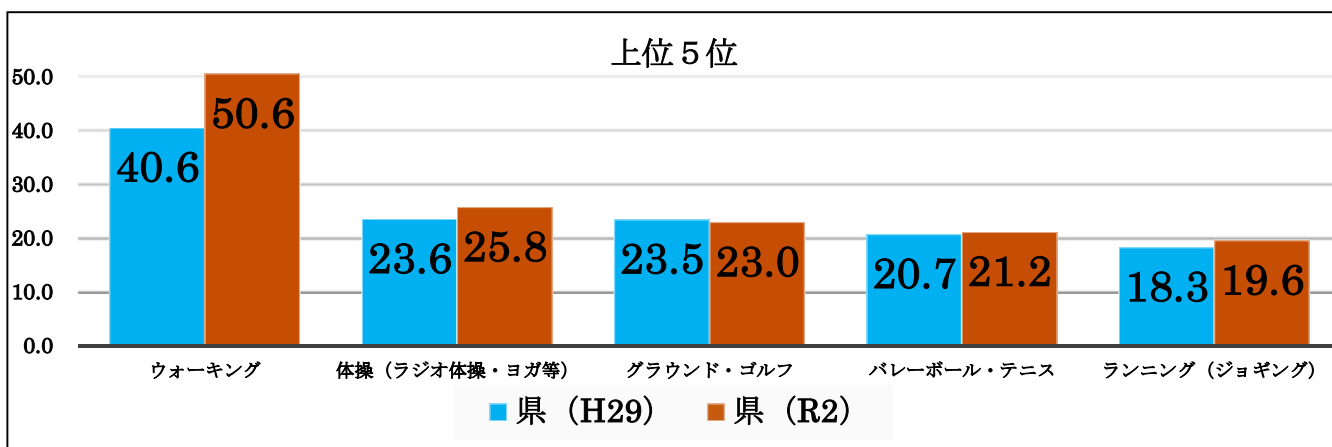
「健康・体力維持増進」や「楽しみ・気晴らし」、「美容肥満解消」などが増加した。一方で「友人・仲間との交流」は4.3ポイント減少した。

【考察】

「友人・仲間との交流」だけが減少したのは、新型コロナウイルス感染症の影響で他者や集団で行うスポーツ活動を控えるようになったことが理由の一つとして考えられる。

問3 この1年間に行った運動やスポーツを教えてください。  
(問1で「しなかった」以外を回答した者：複数回答可)

(%)



【比較結果】

「ウォーキング」の実施者が大きく増加した。上位5位の順は、前回調査と変わっていない。

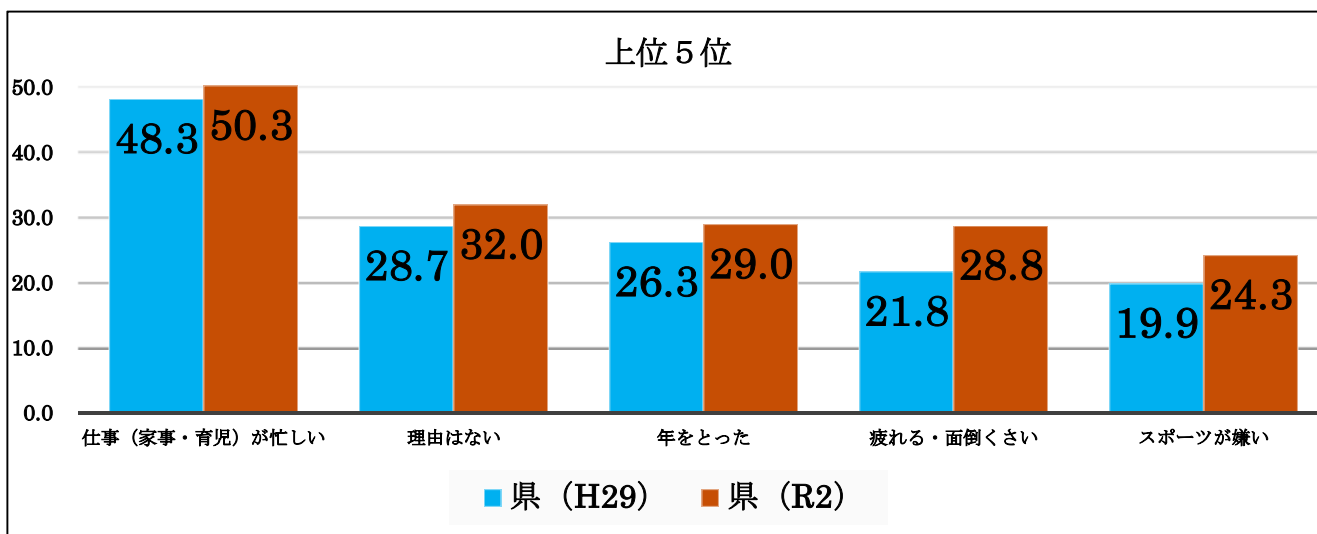
【考察】

個人で行うウォーキングやランニング (ジョギング) の実施者が多くなったのは、新型コロナウイルス感染症の影響で友人・仲間とスポーツを行う機会が減少したことが理由の一つとして考えられる。

問4 この1年間に、運動やスポーツをしなかった理由を選んでください。

(問1で「しなかった」と回答した者：複数回答可)

(%)



【比較結果】

- ・ 「仕事(家事・育児)が忙しい」との理由でスポーツをしなかった人が多い。
- ・ 「疲れる・面倒くさい」との理由でスポーツをしなかった人が7.0ポイント増加した。

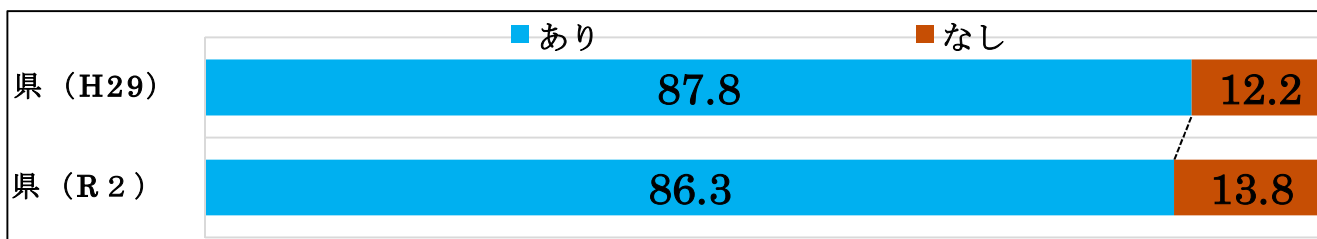
【考察】

「仕事(家事・育児)が忙しい」「疲れる・面倒くさい」との理由でスポーツをしなかった人は、特に女性が多かったことから、誰もがスポーツ本来の「楽しさ、心地よさ」を味わうことのできる環境整備や、気軽に運動ができる機会を設定することが必要であると考えられる。

みるスポーツ

問5 この1年間にスポーツを競技場などで観戦したり、テレビやラジオでスポーツ番組を視聴したりしたことがありますか。

(%)



【比較結果】

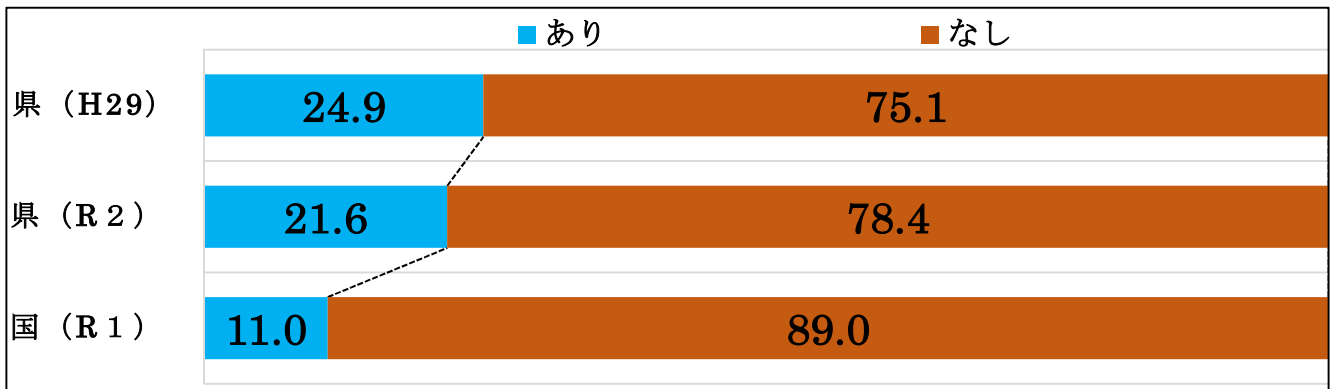
「観戦、視聴したことがある」と回答した人の割合が、前回調査と比較して1.5ポイント減少した。

【考察】

新型コロナウイルス感染症の影響でプロスポーツの試合等の中止が相次ぎ、テレビ放映等も減少したことから数値が減少したものと考えられるが、スポーツを観戦、視聴した人の数値は依然として高く、県民の多くが「みるスポーツ」によって、スポーツが持つ「楽しさ」を味わう機会を得ていることがうかがえる。

## ささえるスポーツ

問6 この1年間に、運動・スポーツの指導やスポーツイベントの運営などスポーツに関するボランティア活動を行いましたか。 (％)



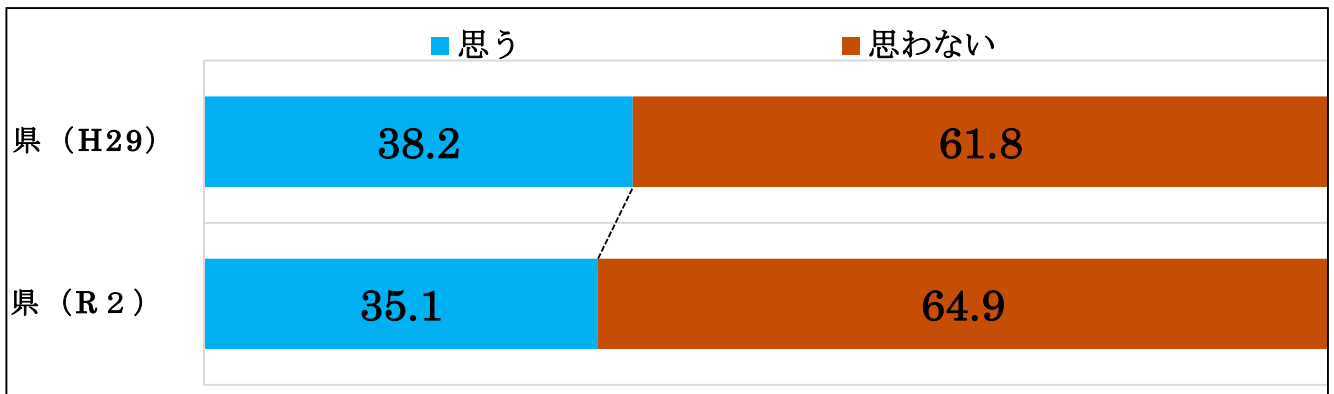
### 【比較結果】

「ボランティア活動を行ったことがある」と回答した人の割合は、国と比較すると10.6ポイント上回っているが、前回調査の参加率からは3.3ポイント下回った。

### 【考察】

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントが延期・中止されたことが、前回調査より減少した要因の一つとして考えられる。

問7 機会があればスポーツ大会やイベントのボランティアをしてみたいですか。 (％)



### 【比較結果】

「ボランティアをしてみたい」と回答した人の割合は、前回調査と比較して3.1ポイント下回った。

### 【考察】

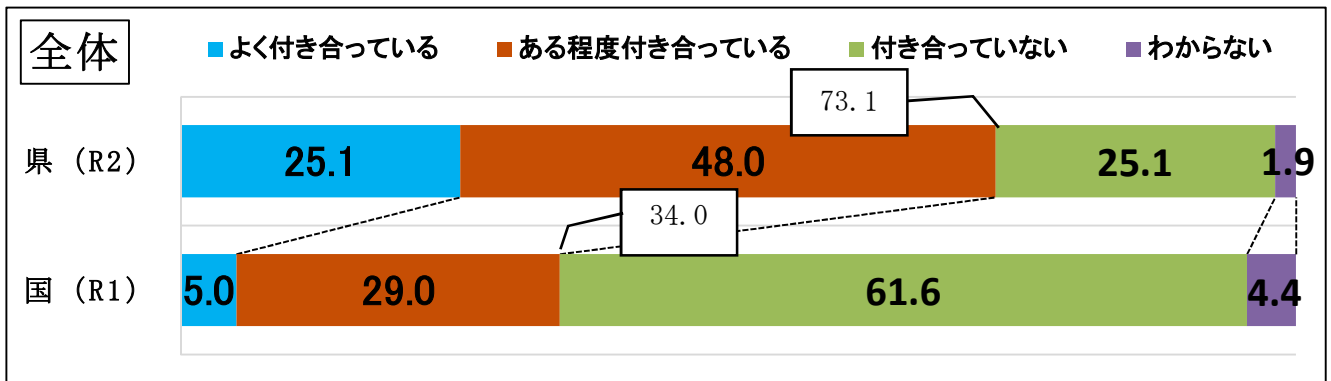
新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント等の延期・中止に加え、2020年に本県で開催が予定されていた国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会が延期されたことも影響していることが考えられる。



地域との付き合い：（令和2年度新規項目）

問8 あなたは、地域との付き合いをどの程度していますか。

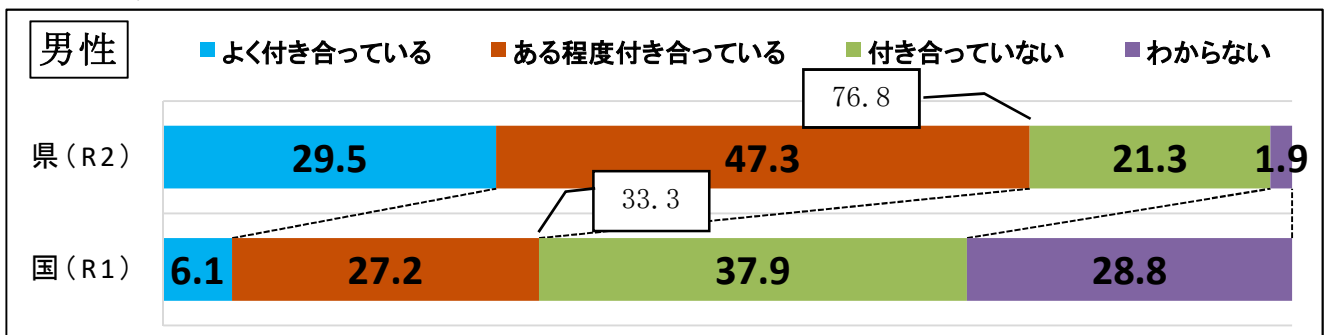
(1) 全体 (％)



【比較結果】

本県の「よく付き合っている」「ある程度付き合っている」を合わせた割合は73.1%で、国の34.0%と比較して39.1%上回っている。

(2) 男女別 (％)



【比較結果】

- ・ 男性の「よく付き合っている」「ある程度付き合っている」を合わせた割合は76.8%で、国と比較して43.5%上回っている。
- ・ 女性の「よく付き合っている」「ある程度付き合っている」を合わせた割合は69.4%で、国と比較して2倍上回っている。

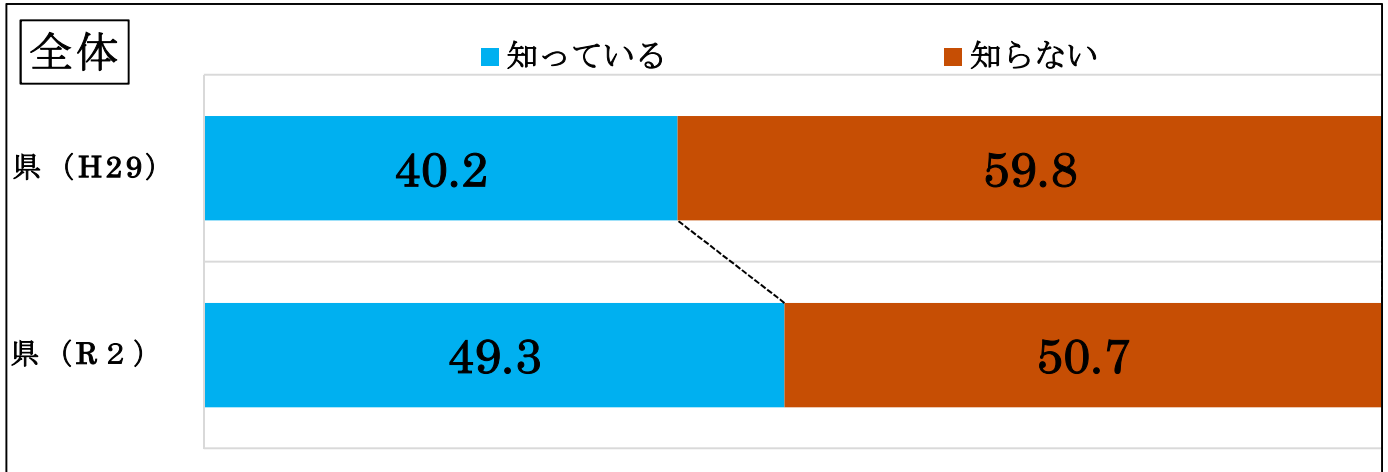
【考察】

県民の多くが地域との付き合いを大切にしていることから、自治体（地域）や総合型地域スポーツクラブ（コミュニティスポーツクラブ）が主体となったスポーツ活動の推進により、さらにスポーツ実施率の向上が期待できるのではないかと考えられる。

総合型地域スポーツクラブ（コミュニティスポーツクラブ）

問9 総合型地域スポーツクラブ（コミュニティスポーツクラブ）、（以下：「コムスポ」という。）について知っていますか。

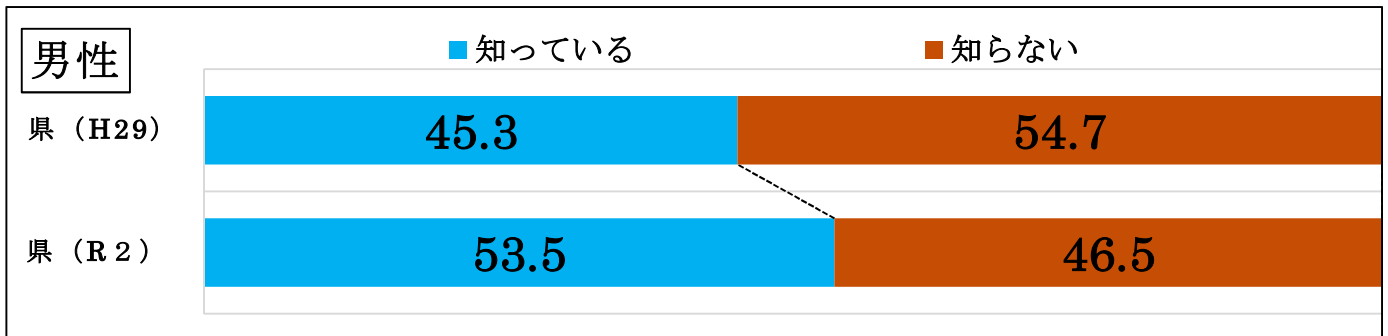
(1) 全体 (％)



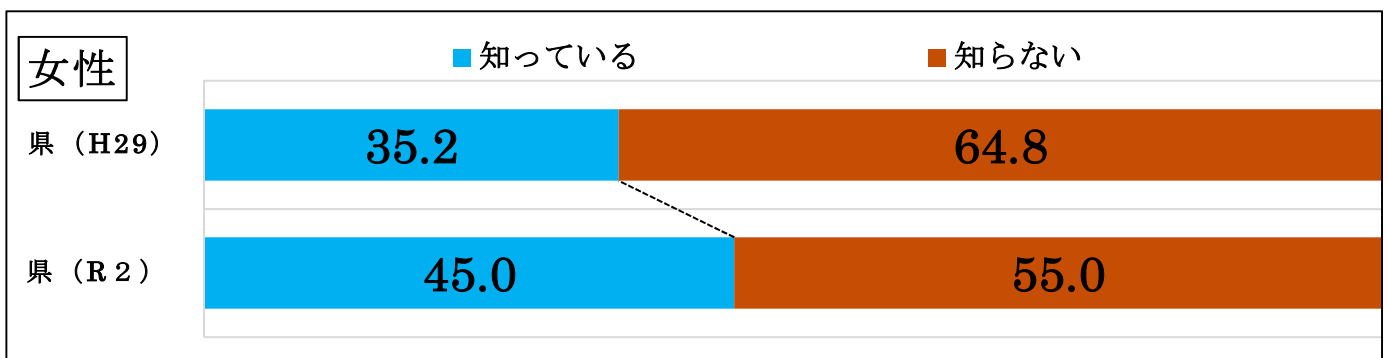
【比較結果】

「コムスポ」の認知度は、前回調査と比較して9.1ポイント上昇した。

(2) 男女別 (％)



(％)

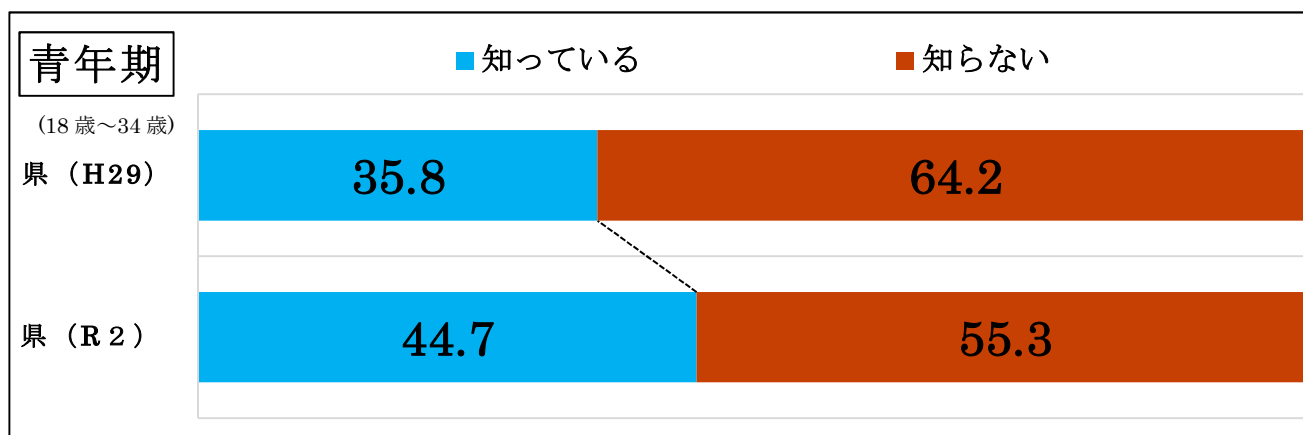


【比較結果】

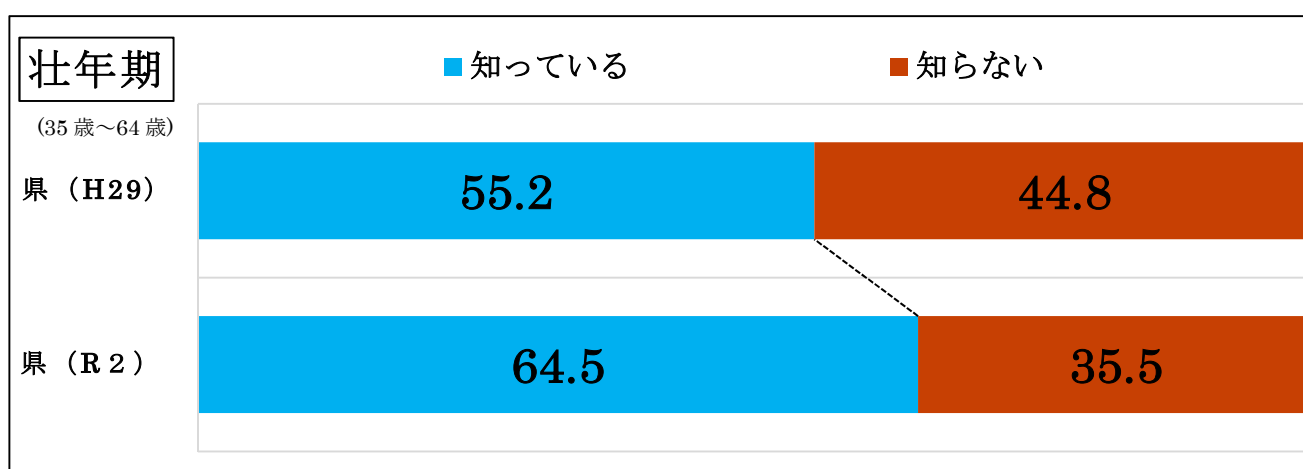
男女とも前回調査と比較して「コムスポ」の認知度は上昇（男性：8.2ポイント、女性：9.8ポイント）した。

(3) 世代別  
ア 男性

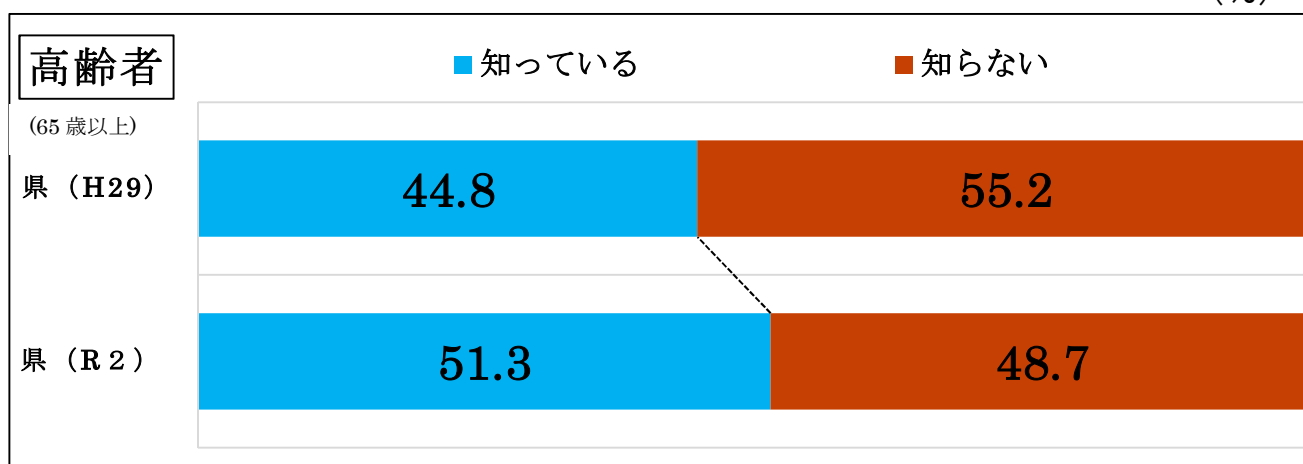
(%)



(%)



(%)

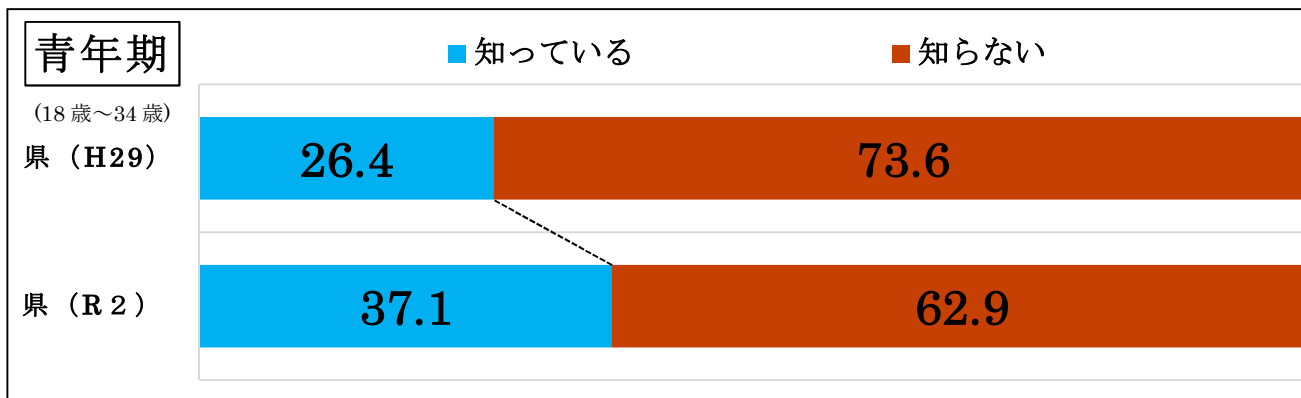


**【比較結果】**

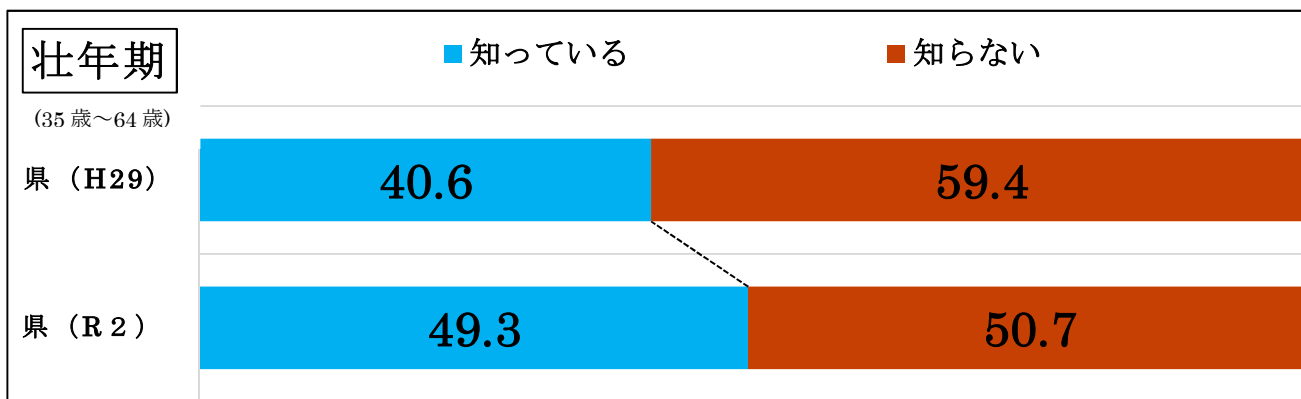
- ・ 「コミスポ」の認知度は、すべての世代で上昇した。
- ・ 青年期の認知度は、他世代と比較して低い。

イ 女性

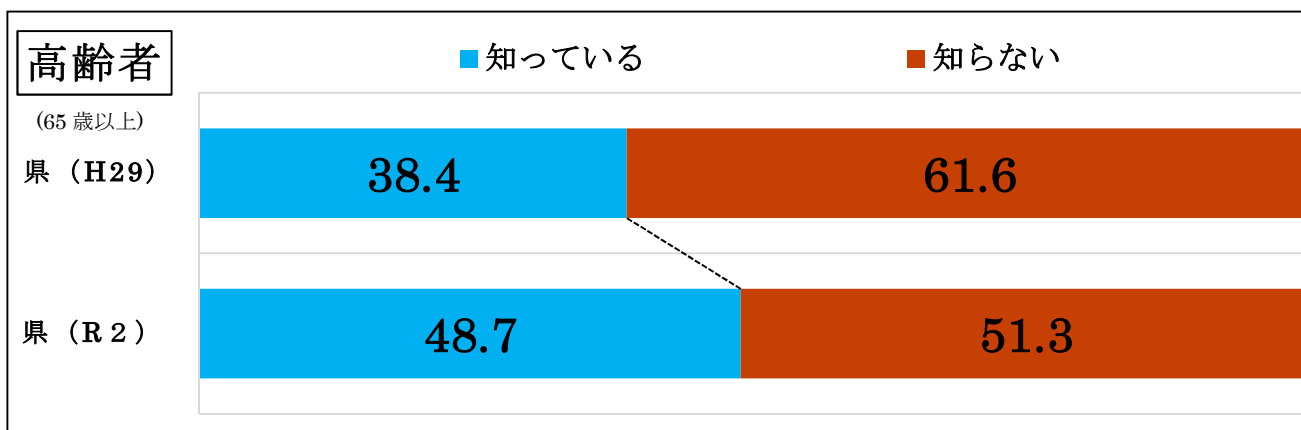
(%)



(%)



(%)



**【比較結果】**

- ・ 「コミスポ」の認知度は、すべての世代で上昇した。
- ・ 青年期の認知度は、男性と同様、他世代と比較して低い。

**【考察】**

(考察)

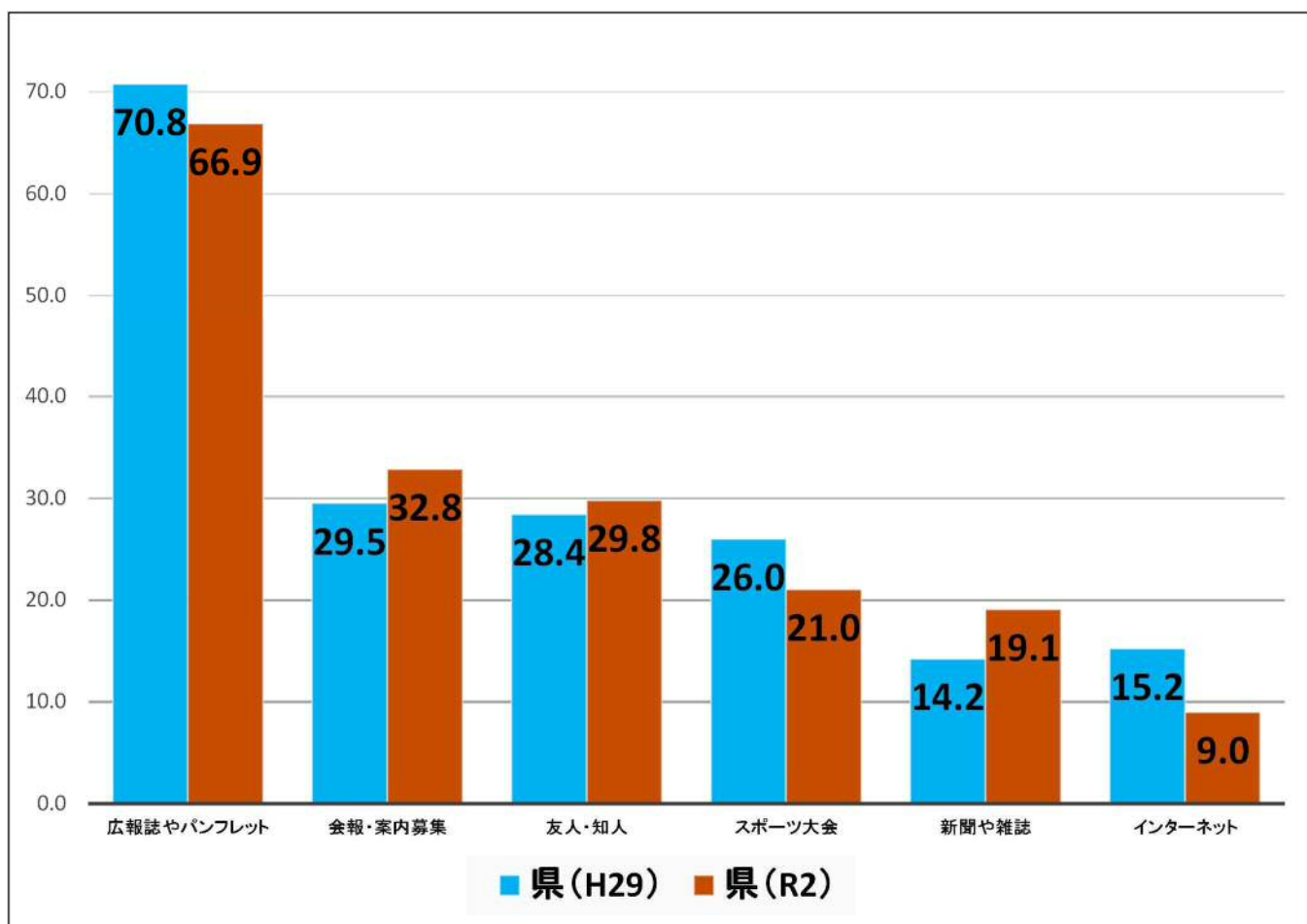
「全体」「男女別」「世代別」とともに認知度は上昇しており、県内の各「コミスポ」や各自治体の広報活動等の成果が少しずつ現れてきている。今後さらに認知度を高めるために各市町村と連携を図り、各「コミスポ」の意義と目的を明確にし、認知度向上対策を講じていく必要がある。

また、男女とも「青年期」の認知度が他世代と比較して低いので、この世代をターゲットとした広報媒体を工夫して、認知度を高めるための広報を継続していくことが重要である。

問10 「コミスポ」について何で知りましたか。

(問9で「知っている」と回答した者：複数回答可)

(%)



【比較結果】

- ・ 「会報や案内募集」, 「友人・知人」からの紹介, 「新聞や雑誌」が増加した。
- ・ 「インターネット (ホームページやフェイスブック)」を媒体として, 「コミスポ」を認知する人の割合が少ない。

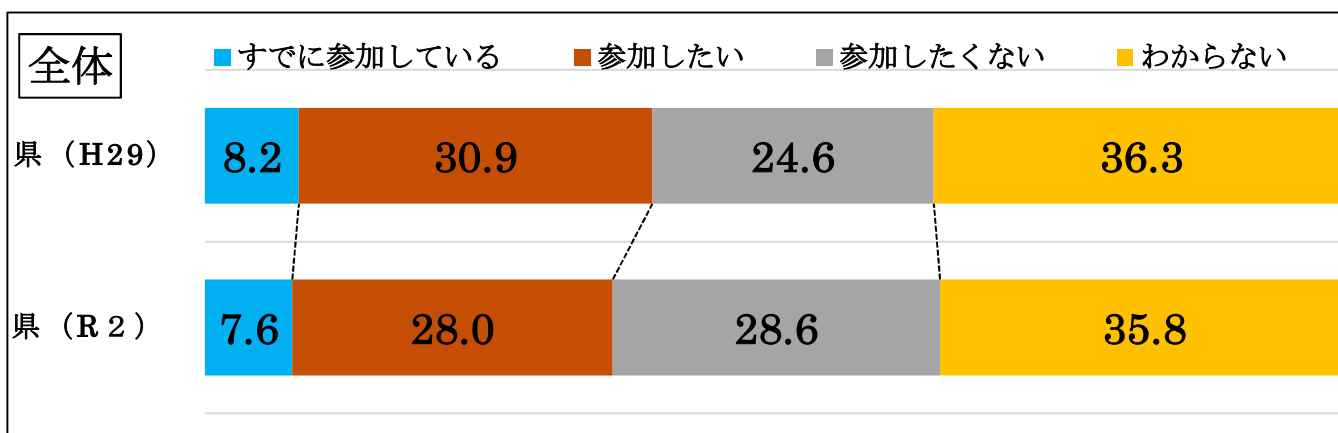
【考察】

- ・ 「広報誌」や「会報」等の媒体はもちろんのこと, 「友人・知人」からの「口コミ」も効果的であると考えられる。
- ・ 「スポーツ大会」が減少したのは, 新型コロナウイルス感染症の影響を受け, 大会等が中止されたことが考えられる。
- ・ 「青年期」に対する認知度向上のため, 上位に入っていない「インターネット (ホームページやフェイスブック)」による広報活動を工夫する必要がある。

問 11 「コミスポ」の活動に参加したいと思いますか。

(1) 全体

(%)

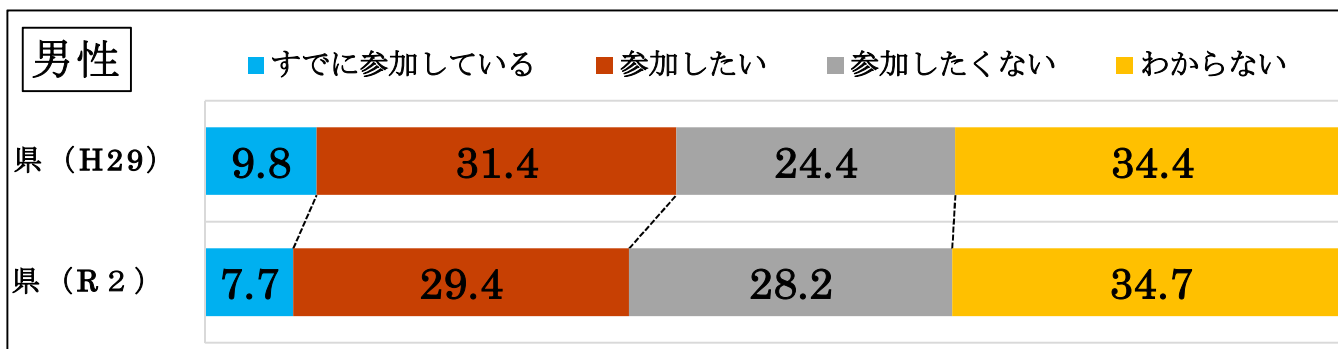


【比較結果】

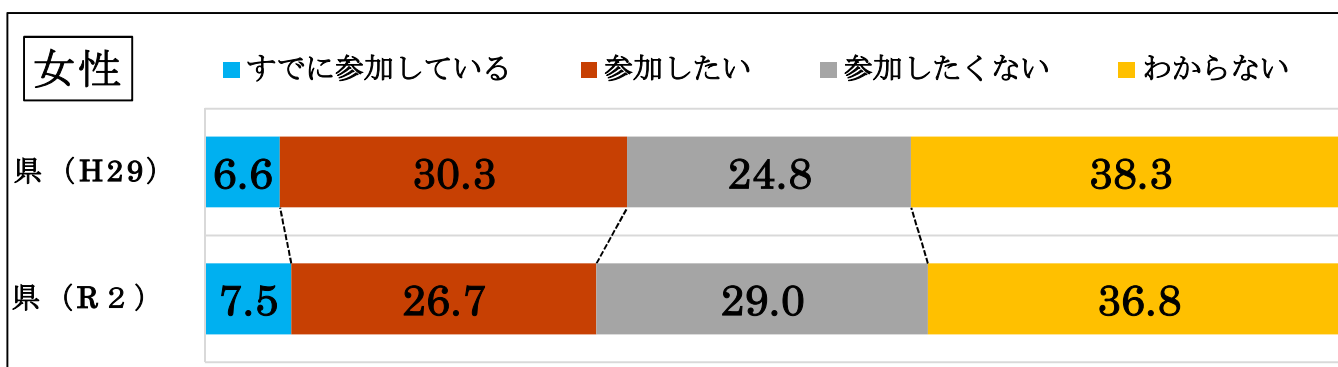
「参加したくない」の割合が前回調査と比較して4.0ポイント増加した。

(2) 男女別

(%)



(%)



【比較結果】

男女とも「コミスポ」に「参加したくない」と回答した人の割合が上昇（男性3.8ポイント、女性4.2ポイント）した。

【考察】

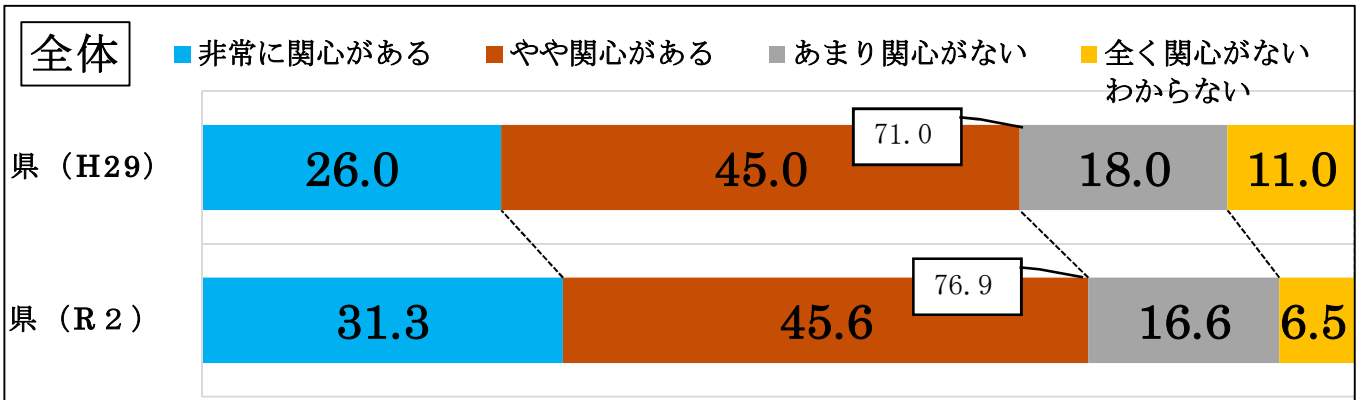
多くの県民が地域とのつながりを大切にしていることから、市町村と連携を図り、地域住民が気軽に楽しく参加できるスポーツイベントを「コミスポ」に開催してもらうことで、「コミスポ」への参加意欲を高めることが期待できるのではないかと考えられる。

国民体育大会・全国障害者スポーツ大会

問 12 本県で、国民体育大会（「燃ゆる感動かごしま国体」）が開催されますが、どのくらい関心がありますか。

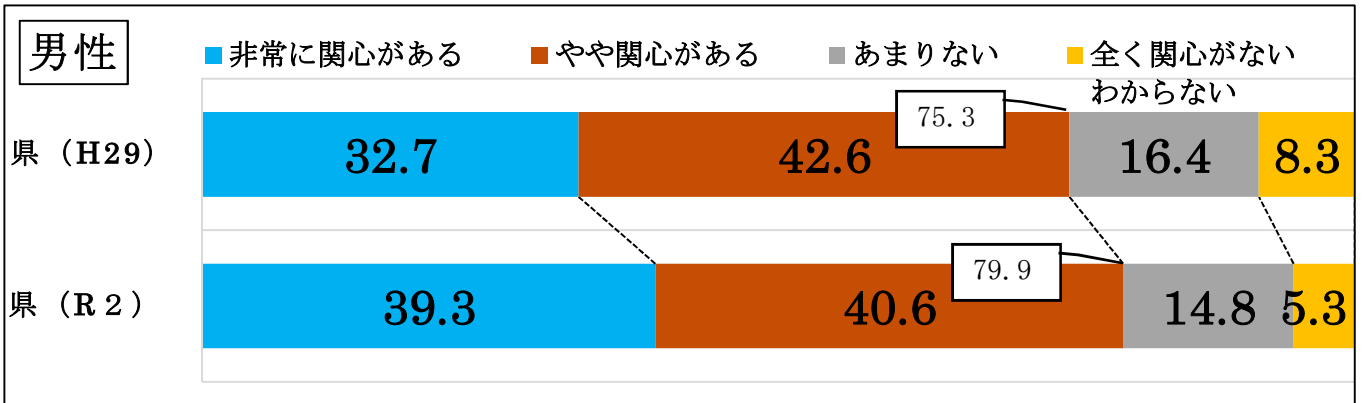
(1) 全体

(%)

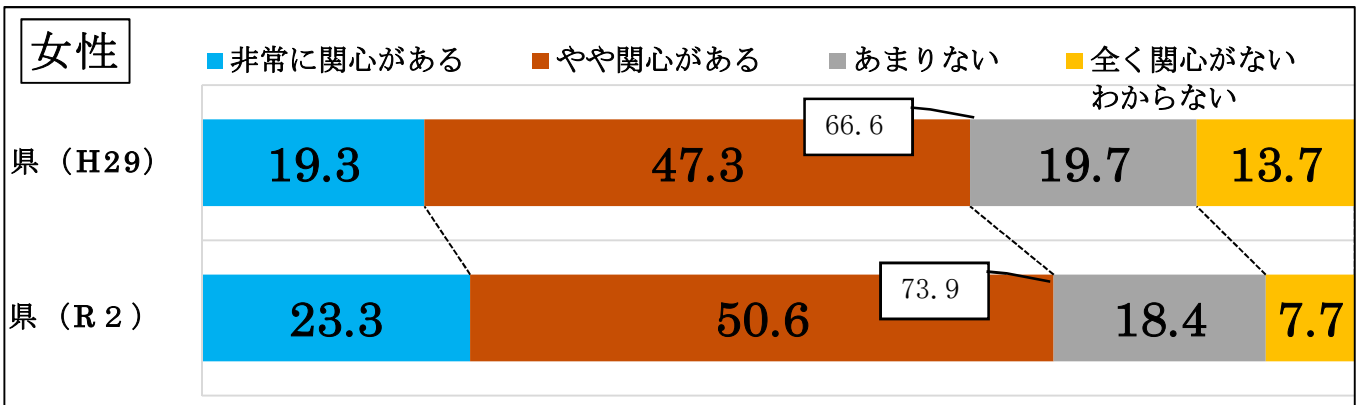


(2) 男女別

(%)



(%)



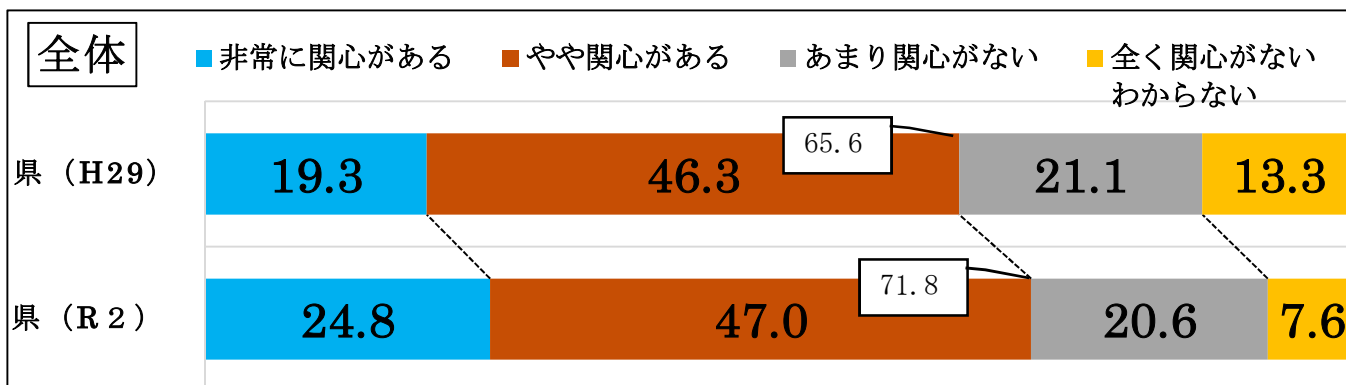
【比較結果】

- ・ 全体では、「非常に関心がある」「やや関心がある」と回答した人が前回調査と比較して、5.9ポイント上昇した。
- ・ 男性の方が女性に比べて関心が高い。

問 13 本県で、全国障害者スポーツ大会（「燃ゆる感動かごしま大会」）が開催されますが、どのくらい関心がありますか。

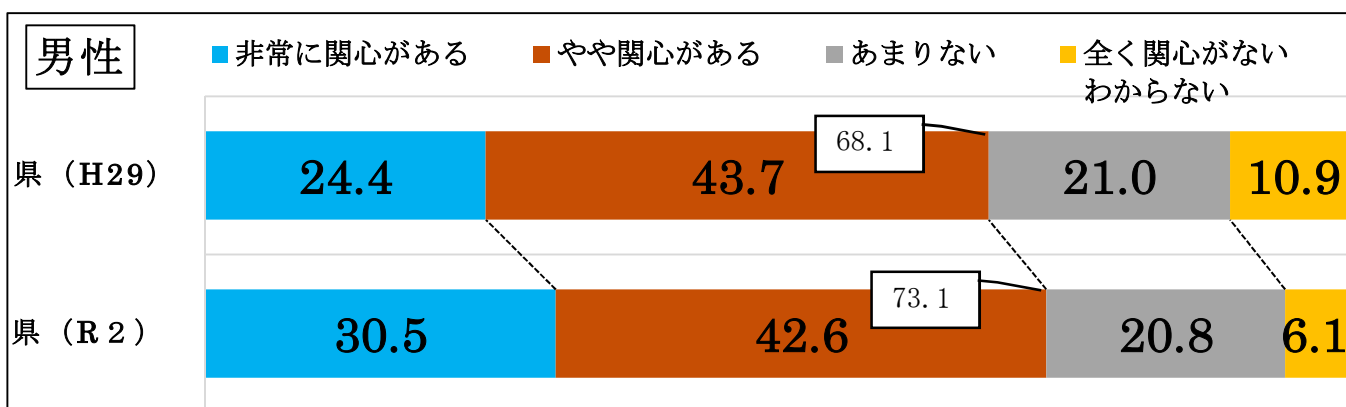
(1) 全体

(%)

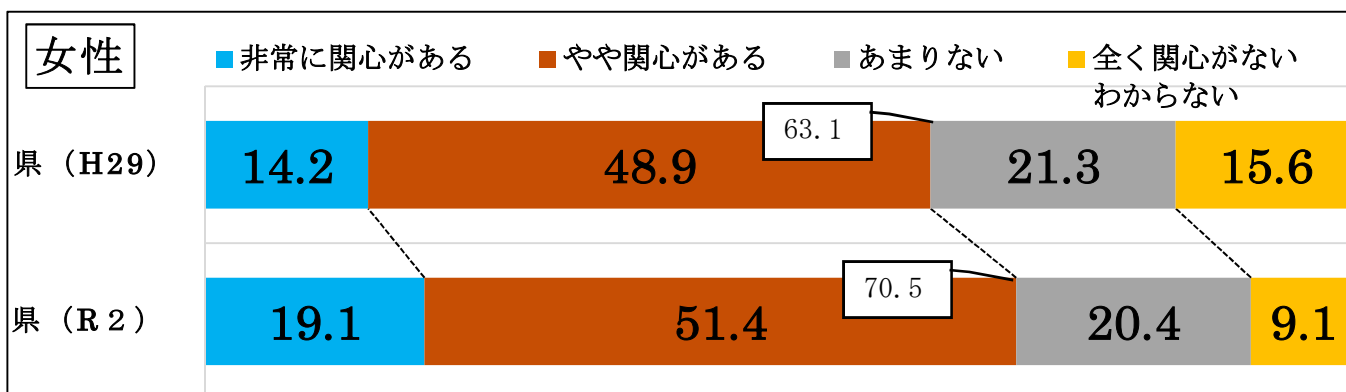


(2) 男女別

(%)



(%)



【比較結果】

- ・ 全体では、「非常に関心がある」「やや関心がある」と回答した人が前回調査と比較して、6.2ポイント上昇した。
- ・ 男性の方が女性に比べて関心が高い。

【問 12, 13 考察】

「国体・全国障害者スポーツ大会局」の充実した広報活動により、県民の両大会への関心が非常に高まったと言える。

2023年の特別大会開催に向け、さらなるPR活動の充実が望まれる。